

令和6年度兵庫県健康づくり審議会

認知症対策部会 資料

開催年月日：令和6年10月18日(金)

# 令和 6 (2024)年度 兵庫県の認知症施策について

兵庫県保健医療部健康増進課 認知症対策班

Hyogo Prefecture

2

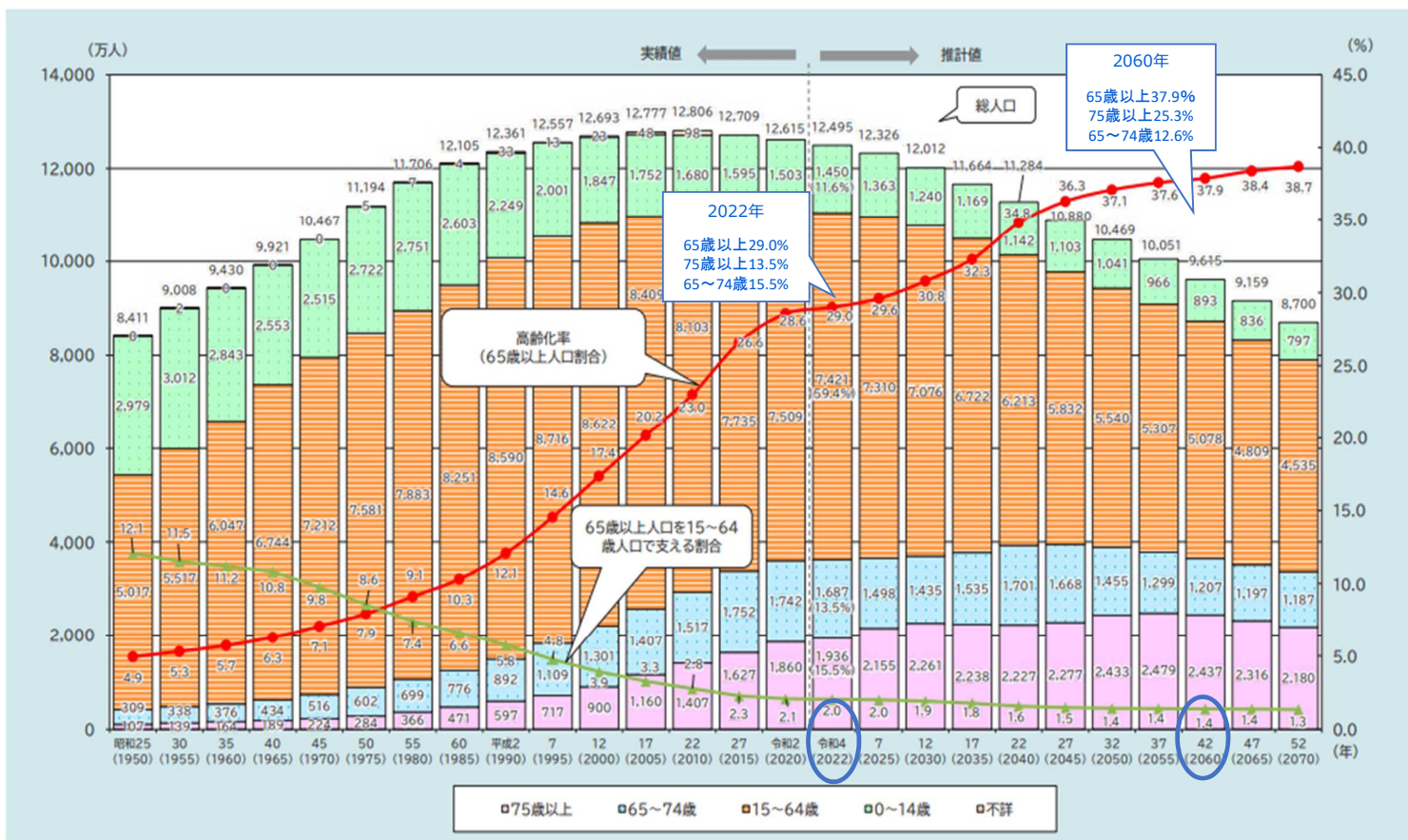
## 目次

- 1 認知症、MCI の状況
- 2 兵庫県の主な施策と取組

# 1 認知症、MCI の状況

# 2 兵庫県の主な施策と取組

## 高齢化の推移と将来推計 (令和5年度高齢者白書より)



## 高齢者と有病率の将来推計

(万人)

	2025年 (令和7年)	2040年 (令和22年)	2050年 (令和32年)	2060年 (令和42年)
認知症	471	584	587	645
(有病率)	(12.9%)	(14.9%)	(15.1%)	(17.7%)
MCI	564	612	631	632
(有病率)	(15.4%)	(15.6%)	(16.2%)	(17.4%)
計	1,035	1,196	1,218	1,277

資料：「認知症および軽度認知障害の有病率調査並びに将来推計に関する研究」  
(令和5年度老人保健事業推進費等補助金 九州大学 二宮利治教授) より厚生労働省にて作成

## 兵庫県の認知症高齢者数の推移

(人)

	2025年 (令和7年)	2040年 (令和22年)
認知症	209,415人	263,038人
(有病率)	12.9 (%)	14.9 (%)
MCI	250,000人	275,395人
(有病率)	15.4 (%)	15.6 (%)
計	459,415人	538,433人

資料：「認知症および軽度認知障害の有病率調査並びに将来推計に関する研究」  
(令和5年度老人保健事業推進費等補助金 九州大学 二宮利治教授) より厚生労働省にて作成 を参考に  
兵庫県健康増進課にて算出。

## 令和3～5年度認知症疾患医療センター鑑別診断件数まとめ

7

(令和6年3月末現在) (件)

		R3		R4		R5	
鑑別診断件数 (25センター)		6,452	(割合)	6,528	(割合)	7,088	(割合)
内 訳	正常または健常	459	7%	567	9%	693	10%
	軽度認知障害 (MCI)	1,223	19%	1,322	20%	1,655	23%
	認知症 (3～16に該当)	3,788	59%	3,756	58%	3,877	55%
	上記以外の疾患等	982	15%	883	14%	863	12%
	うち65歳未満						
	正常または健常	68		75		82	
	軽度認知障害 (MCI)	31		32		53	
	認知症	56		64		90	
	上記以外の疾患等	61		53		61	

8

## 1 認知症、MCIの状況

## 2 兵庫県の主な施策と取組

## 兵庫県認知症施策推進計画の概要

(兵庫県老人福祉計画(第9期介護保険事業支援計画))

国の「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」「認知症施策推進大綱」を踏まえ、認知症の人やその家族の視点に立った総合的な取組を推進

### 兵庫県の認知症施策の推進

ビジョン

「認知症の人も安心して暮らせるまちへ」

【5本柱で推進】

1 認知症予防・早期発見の推進

2 認知症医療体制の充実

3 認知症地域支援ネットワークの強化

4 認知症ケア人材の育成

5 若年性認知症施策の推進



当事者の視点を重視

切れ目のない支援

分野横断的な取組

認知症の人が、主体的に社会に関わり住み慣れた地域で尊厳を保ち、安心して住み続けられる地域



誰もが暮らしやすいまち

### ●5本柱と主な取組及び

兵庫県老人福祉計画(第9期介護保険事業支援計画)(認知症施策推進計画)の主な目標

施策の方向性・主な取組	主な目標	該当頁
<b>認知症予防・早期発見の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しい知識や理解等の普及啓発</li> <li>市町や職域における早期発見・早期対応の取組強化の支援</li> </ul>	○認知症疾患医療センターと市町連携によるMCI(軽度認知障害)支援ネットワーク構築に向けた取組 1圏域 → 7圏域 (2022) (2026)	3
<b>認知症医療体制の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>MCIの方などへの支援ネットワークの推進</li> <li>認知症疾患医療センターを核にかかりつけ医等のネットワーク強化</li> <li>認知症疾患医療センターの職員研修等による人材育成</li> </ul>	○認知症サポート医養成研修の実施 577人 → 786人(累計) (2022) (2026)	6
<b>認知症地域支援ネットワークの強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の人と家族の声を施策に反映する取組の強化</li> <li>好事例紹介や研修等によるチームオレンジの整備に係る市町支援</li> </ul>	○本人ミーティングの実施 8市町 → 41市町(全市町) (2022) (2026) ○チームオレンジのネットワーク構築 16市町 → 41市町(全市町) (2022) (2026)	10
<b>認知症ケア人材の育成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症介護研修の体系的実施(基礎・実践者・リーダー・指導者)</li> <li>認知症機能訓練システム(4 DAS)の施設等での活用に向けた普及</li> </ul>	○認知症介護実践者研修の実施 7,557人 → 8,960人(累計・神戸市除く) (2022) (2026)	13
<b>若年性認知症施策の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>圏域毎の若年性認知症支援ネットワークの強化</li> </ul>	○ひょうご若年性認知症支援センターの設置・運営 地域支援ネットワークを充実	15

# 1 認知症予防・早期発見の推進

11

## 地域共生社会における認知症予防への取組推進

認知症の発症を遅らせ、進行を穏やかにする「予防」の取組を、アルツハイマー病の脳内変化が始まると推測される中年期層に対しても強化し、予防(健康づくり)、早期発見から対応までの仕組みづくりを地域共生社会の実現の取組と連携しながら一体的に推進する。

### (1) 認知症予防教室強化学業

- ① 県内市町において認知症予防事業を、先進的な研究結果に基づくプログラムの活用や客観的データを用いた効果検証により、より効果的な内容に展開する取組を支援（神戸大学開発の「コグニケア」）
- ② 認知症自己チェック等の普及啓発媒体作成・配布（兵庫県版認知症チェックシート等）

### (2) 認知症相談センターの機能強化研修

認知症相談センター職員、市町認知症支援担当者、認知症疾患医療センター相談員等を対象に、研修会を実施。（R6テーマ：MCI支援体制の構築等）

### (3) 認知症・高齢者相談

県民総合相談センターにて、高齢者及びその家族が抱える認知症を含む各種の心配ごと、悩みごとに対応するため、認知症の人と家族の会(月・金)、兵庫県看護協会(水・木)による電話相談を実施。

## (4) 働き盛り世代の認知症理解促進事業

12

中年期世代から、発症リスク低減につながる生活習慣の改善や、認知症観の転換を促すなど、認知症への備えの意識が高まるよう、企業等の従業員や管理者に正しい知識を普及し、理解促進を図る。

### ① 認知症理解促進強化学業〔医師会へ委託〕

企業の管理者等を対象に、VRを活用した認知症の疑似体験や医師の講義等による研修を実施し、認知症への理解を深めることにより、従業員の健康づくりや労働環境整備等組織的な取組強化を促進する。

### ② 認知症への備え力アップ促進事業〔兵庫県健康財団へ委託〕

企業の従業員等、中年期からの生活習慣の見直しや認知症への正しい理解を促進するためのリーフレットや動画等の啓発媒体を作成し、県や健康財団のホームページ等のWEBも活用し、労働者が情報を得やすいよう発信する。

### ③ 健康マイプラン実践講座(認知症関連)に対する助成事業〔兵庫県健康財団へ補助〕

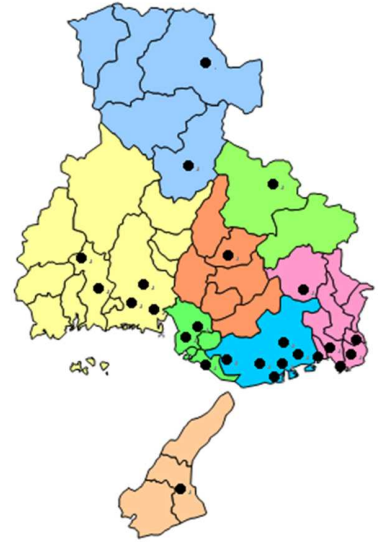
企業において、従業員向けに研修を実施する場合、講師派遣に伴う費用の一部を助成する。 ※R5～開始。R5実績：16回、1,048人（参加人数延べ）

## (1) 認知症疾患医療センター設置・運営事業

県内25か所設置 [うち神戸市指定7か所]

●：認知症疾患医療センター所在

圏域	医療機関名	圏域	医療機関名
神戸 (7)	・神戸大学医学部附属病院 ・公益財団法人甲南会甲南医療センター ・医療法人社団顕鐘会神戸百年記念病院 ・医療法人美風会新生病院 ・兵庫県立ひょうごこころの医療センター ・医療法人明倫会宮地病院 ・地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立医療センター西市民病院	北播磨 (1)	・西脇市立西脇病院
		播磨 姫路 (5)	・兵庫県立はりま姫路総合医療センター ・兵庫県立リハビリテーション西播磨病院 ・医療法人公仁会姫路中央病院 ・特定医療法人恵風会高岡病院 ・医療法人古橋会揖保川病院
阪神 (5)	・兵庫医科大学病院、 ・独立行政法人国立病院機構兵庫中央病院 ・兵庫県立尼崎総合医療センター ・市立伊丹病院 ・一般社団法人仁明会仁明会クリニック	但馬 (2)	・公立豊岡病院組合立豊岡病院 ・医療法人社団俊仁会大植病院
		丹波 (1)	・医療法人敬愛会大塚病院
東播磨 (3)	・地方独立行政法人加古川市民病院機構 加古川中央市民病院 ・医療法人社団光明会明石こころのホスピタル ・医療法人社団いるか心療所	淡路 (1)	・兵庫県立淡路医療センター



## 認知症疾患医療センター実績

- 鑑別診断件数（年度途中の指定センターを含む）
- ・令和4年度：6,528件（25センター）
- ・令和5年度：7,088件（25センター）

- 初診までの平均待機日数

H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
約4週間	約6週間	約4週間	約3週間	約18日	約19日	約23日

## 【参考】主要府県の認知症疾患医療センター設置状況

(令和5年10月時点)

	埼玉	千葉	東京	神奈川	愛知	京都	大阪	兵庫	福岡
二次医療圏域数	10	9	13	9	11	6	8	8	13
センター総数	10	11	52	25	15	9	14	25	18
うち指定都市センター数	1	1	-	15	4	2	8	7	7
指定都市数	1	1	-	3	1	1	2	1	2

## ● 「認知症疾患医療センター運営事業実施要綱」の一部改正

国の要綱改正を受け、

「兵庫県認知症疾患医療センター運営事業実施要綱」を改正（R6.4.1施行）

## 【改正点】

「事業内容」の「診断後支援機能」に

「アルツハイマー病の抗アミロイドβ抗体薬に係る治療・相談支援等機能」の追加

アルツハイマー病の抗アミロイドβ抗体薬に係る治療を行うに際し、認知症の人や家族からの当該治療についての相談対応・支援、地域の医療機関からの相談対応、また、地域の医療機関等と連携し、アルツハイマー病の抗アミロイドβ抗体薬に係る治療の適応外である者への支援等の実施。



形態：委託事業  
 委託先：西播磨病院（協働市町）(1)・(2) ※(3)への協力  
 兵庫医科大学病院（協働市町）(1)・(2) ※(3)への協力  
 姫路中央病院（協働市町）(1)・(2) ※(3)への協力

事業期間：1年（1年ごとに評価）

目的：認知機能が低下してからも、本人の力を活かして自分らしい暮らしを続けることができるよう早期からの適切な支援体制の構築を目指す。  
 ※健康危機（認知機能低下、MCI）に直面した県民が、自分らしい暮らしを維持し、自身の力を十分発揮して人生を全うできるよう診断直後から適切な支援を受けられる体制の整備を進める。

新薬の承認等、認知症医療体制が大きく変化する社会背景を踏まえ効果的かつ現実的なMCIの支援体制の在り方を検討をする市町が協働することで、認知症疾患医療Cと市町との連携強化、地域における支援体制の検討を促進する

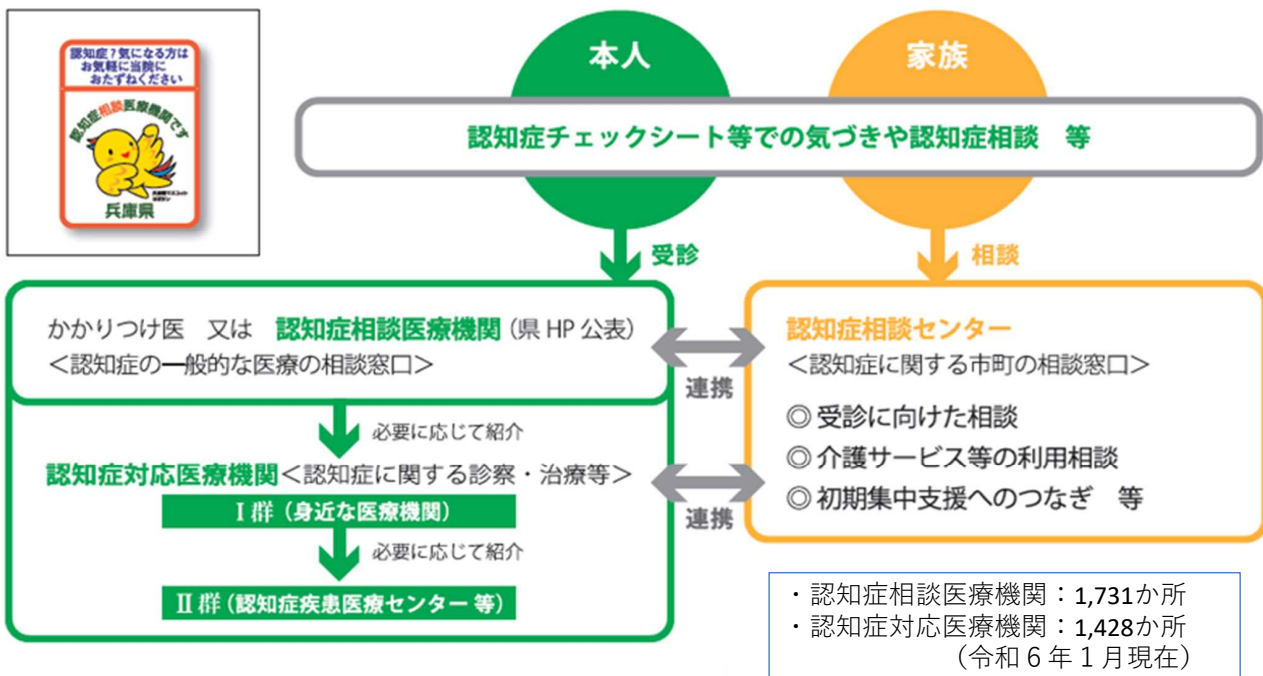
事業内容	認知症疾患医療センターの役割	協働市町の役割
<b>(1) MCI院内教室の実施</b> 認知症疾患医療Cで、MCIと診断した本人、家族への診断後支援として疾病理解と受容を促す <b>主催：受託した認知症疾患医療C</b> 回数：年5回程度 プログラム：各認知症疾患医療Cのオリジナル 但し①疾病理解 ②対応方法③社会資源は必須 対象者：自院でMCIと診断した患者とその家族	・市町と協働して教室を企画、運営し、院内におけるMCIの方への診断後支援を強化する ~効果~ ○患者・家族への疾病理解・受容を促すことができる ○MCI患者とつながり続ける手段となる ○市町事業へのつながりがしやすい ○市町との連携強化・相互理解が進む	・認知症疾患医療センターと協働して教室運営に関わり、地域でのMCIの方への支援体制構築を検討するためのヒントを得る ・地域資源や相談機関について紹介する ~効果~ ○市町担当者の疾病理解・ニーズ把握、施策展開への一助 ○社会資源について情報提供ができる ○認知症疾患医療Cとの連携強化・相互理解が進む
<b>(2) MCI支援体制構築会議の設置</b> 各認知症疾患医療Cや市町の実情に応じた教室実施計画の共有、実施中、実施後の評価、見直し等を教室実施のセンターごとで実施する <b>主催：受託した認知症疾患医療C</b> 回数：年2、3回程度 構成員：認知症疾患医療センター、協働市町等MCI院内教室の運営メンバー	・MCI院内教室に携わる関係者、協働市町の担当者を集め、教室のあり方やMCI支援体制構築に向けた検討を行う ~効果~ ○教室の運営方針や目的を意見交換・共有することで、市町の視点も反映したより効果的な教室のあり方を検討できる ○認知症疾患医療センターと協働市町がそれぞれの視点で意見交換・情報収集することで、圏域ごとのMCI支援体制構築が促進される	・認知症疾患医療センターが開催する会議に出席し、MCIの方への地域での支援体制構築を検討する
<b>(3) ひょうごMCIネットワーク会議</b> MCI院内教室を実施する3センターと協働市町による、全県展開に向けた意見交換を開催。 (MCI院内教室の実践報告・課題・効果等の共有) <b>主催：兵庫県</b> (年2回程度)	<b>【ねらい】</b> ・MCI院内教室を実施するセンターとその協働市町とともに、実施結果を踏まえ、全県展開に向けた共通課題の抽出や、より効果的なMCI院内教室のあり方について検討し、全圏域のMCI支援体制構築に向けた検討を行っていく	

### (3) 認知症地域医療連携体制強化事業

#### 認知症対応医療機関連携強化推進事業

認知症相談医療機関及び認知症対応医療機関の県内全域での普及・定着を図るため、地域ごとの連絡会等を実施するとともに、認知症医療全県フォーラムを開催する。

< 早期発見・早期対応の仕組み >





## (4) 医療従事者の認知症対応力向上研修

<養成数（認知症対応力向上研修研修修了者）>

対象	R 5 年度末 修了者数	R 8 年度末 養成目標数	備考
認知症サポート医(2005(H17)年度～)	636	786	神戸市修了者239人含む
かかりつけ医(2006(H18)年度～)	2,099	2,860	神戸市分除く
病院勤務の医療従事者向け(2014(H26)年度～)	3,986	6,494	神戸市分除く
歯科医師(2016(H28)年度～)	1,191	1,780	
薬剤師(2016(H28)年度～)	2,474	3,100	
看護職(病院に勤務するリーダー等) (2016(H28)年度～)	1,225	1,920	
病院勤務以外の医療従事者	451		
看護職(2022(R4)年度～)	181		
歯科衛生士(2022(R4)年度～)	180		
多職種(PT・OT・ST・栄養士等) (2023(R5)年度～)	90		

※兵庫県老人福祉計画(第9期介護保険事業支援計画)における養成目標

○さらなる資質向上のために・・・

- ・認知症専門研修 県医師会  
サポート医等に対する研修
- ・サポート医の連携強化 県医師会
- ・歯科医師・薬剤師ステップアップ研修  
認知症対応力向上研修修了者等  
に対する研修
- R4～県歯科医師会
- R5～県薬剤師会
- ・病院勤務以外の医療従事者
- R4～ 看護職・歯科衛生士
- R5～(拡充) 栄養士・理学療法士等

<見直しの要点・カリキュラムの改定状況等>

- 各研修のカリキュラム及び教材の見直しあり。
- ⇒**共生社会の実現を推進するための認知症基本法、アルツハイマー病の新しい治療薬などの最新情報を追加した内容に改訂(R6年度版)**

## ● 共生社会の実現を推進する施策の展開

### 1 国の方針

#### ○「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」(R6.1.1施行)

<目的>

認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、認知症施策を総合的かつ計画的に推進  
→認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会(=共生社会)の実現を推進

<認知症施策推進基本計画等>

都道府県・市町村は、それぞれ都道府県計画・市町村計画を策定(認知症の人及び家族等の意見を聴く)

### 2 県の方針

#### ○ 従来からの国の認知症施策推進大綱に基づいた、「共生」と「予防」を両輪とする取組に加え、新法の考え方を踏まえ共生社会の実現を推進する取組を一層推進する。

→認知症施策全てにおいて、「共生社会の実現」を目的として推進

#### ○ 兵庫県老人福祉計画(第9期介護保険事業支援計画)と県認知症施策推進計画を一体的に策定

→**認知症の人及び家族等の意見を聴く場を拡充**

### 3 認知症の人及び家族の意見を聴く場

- 若年性認知症とともに歩むひょうごの会(H27～)
- 「ひょうご認知症希望大使」からの意見(R3～)
- 認知症対策部会(※)・若年性認知症自立支援ネットワーク会議への当事者のワザワザ参加(R5～)
- 認知症対策部会事前ミーティング(R5～)  
→ 認知症対策部会の構成員であるひょうご認知症希望大使と、県内在住の当事者のうち希望する者が、県職員と、認知症施策について、意見交換を行う。  
※意見交換された内容は、認知症対策部会において当事者の意見として報告。
- その他各機会を通じた当事者の意見を聴く機会

## 県施策へ反映

#### ※認知症対策部会

健康づくり審議会の部会として設置  
<委員構成>

当事者(本人・家族)、学識経験者、保健、医療、福祉、介護関係者等

<内容>

- ① 現状と課題の共有
- ② 推進方策の検討

開催日：令和6年9月10日（火）14時～15時半  
 場所：兵庫県民会館7階 ばら  
 参加者：ひょうご認知症希望大使（古屋さん）  
 大使活動のパートナー（北村さん）  
 若年性認知症ご本人（井上さん）とご家族  
 認知症の人と家族の会代表  
 健康増進課認知症対策班



### ～テーマ～

これまでの日々の暮らしの中で  
 大切にしてきたこと  
 これからも続けたいことは何ですか？

### ★大切にしてきたこと・続けたいこと★

- ・料理をやっていたい
- ・「古屋さんとの出会い」と「認知症の人本人だけのグループトーク」が自分を取り戻すきっかけになった
- ・若年性認知症の同士がつながっていくために、そして、認知症と認知症の人本人を正しく理解してもらうために、講演活動を続けていきたい。
- ・仕事を続けたい
- ・月1回、コーラスに行くことが楽しみ。

### \*決定事項\*

- 1 本人ミーティングを年に複数回開催する
- 2 県内の認知症の人の声を県ホームページ等を広く発信する

### ～当日の感想～

今回は、参加者が少なくなってしまったため、急遽本人ミーティングのあり方も考える会となりました。皆さんのご意見を伺うことで、県担当者の理解も深まり、認知症施策を進めるうえで本会は大切な機会となっています。これからもよろしくお願いします。

### ★いただいたご意見★

- ・認知症の方となかなか繋がることができない。
- ・福祉分野以外の方々にも、「自分が認知症になっても、就労継続など、今と変わらない生活を送れるか」を自分事として考えて欲しい。
- ・本人の声を発信できる場所を増やしてほしい

●認知症は、まだまだ世の中には残念ながら理解されていない。知らない人も多い。だけど知ってもらいたい。そのためには、古屋さんの活動が必要。

○認知症の人が居ることを沢山の人が知って欲しい。けど、怖いかなとも思う。だから見たくない。聞きたくないとなるのでは。

●怖いから知りたくない、そういう人を無理やりじゃなく、連れてくるアイデアは？

○難しいですね。必死でやります！（古屋さんの宿題となりました）



●パートナー北村さん

○認知症希望大使 古屋さん

◎本日来られなかった認知症ご本人のその後の様子を伺い、直面している問題や課題について、顔をみながら、意見交換できたら良かったなあ。

生の私を見て、「認知症になってもまだまだ、できることはたくさんある」ということを沢山の人が知ってもらいたい。

☆認知症の啓発の動きは増えてますが、「当事者の声」を聞くことによって、私たちが何を考えて、どうしたら良いか、全体的に考えていかないとイケないですね。



Hyogo Prefecture

## 3 認知症地域支援ネットワークの強化

### 認知症への社会の理解を深めるための普及啓発・本人発信支援の取組

#### ●認知症への理解を深めるためのキャンペーン等の実施

県民の認知症に対する正しい理解が促進されるとともに、多様な社会的背景を持つ認知症の人や家族が、安心して集える居場所や相談先などの必要な情報を得られるよう、従来からの取組である街頭キャンペーン、認知症啓発ウォーク、認知症カフェ連絡・研修会に加え、多様な手段での発信を強化

#### 1 認知症の人と家族の会兵庫県支部ホームページの開設



認知症の人と家族の会の活動内容や今後のイベントの予定・入会に関する情報、お問い合わせフォーム等を掲載しています。

#### 2 認知症の人本人からのメッセージ、家族へのインタビュー動画の作成

認知症の人でも安心して暮らせるまちへ  
 ～ 当事者からのメッセージ ～

認知症発症当時から進行の経過の中での思い、家族との関係、家族会との出会い、今悩んでいる人へのメッセージ等をお話いただいています。  
 （左記HP、県HPIにて公開）

R4年度～県関連施設として、明石城(9/20)、人と防災未来センター(9/21)のオレンジライトアップ  
 R5年度は認知症の人と家族の会兵庫県支部に協力いただき、メディアも活用した発信等により対策を強化(ラジオ関西まつり)。また、認知症対策部会前の本人事前ミーティングを実施。  
 R6年度は、認知症の人と家族の会兵庫県支部とラジオ関西が共催で、10/27に「フォーラム」を開催予定。

## 4 認知症ケア人材の育成

## (1) 認知症介護研修の実施（法定研修）

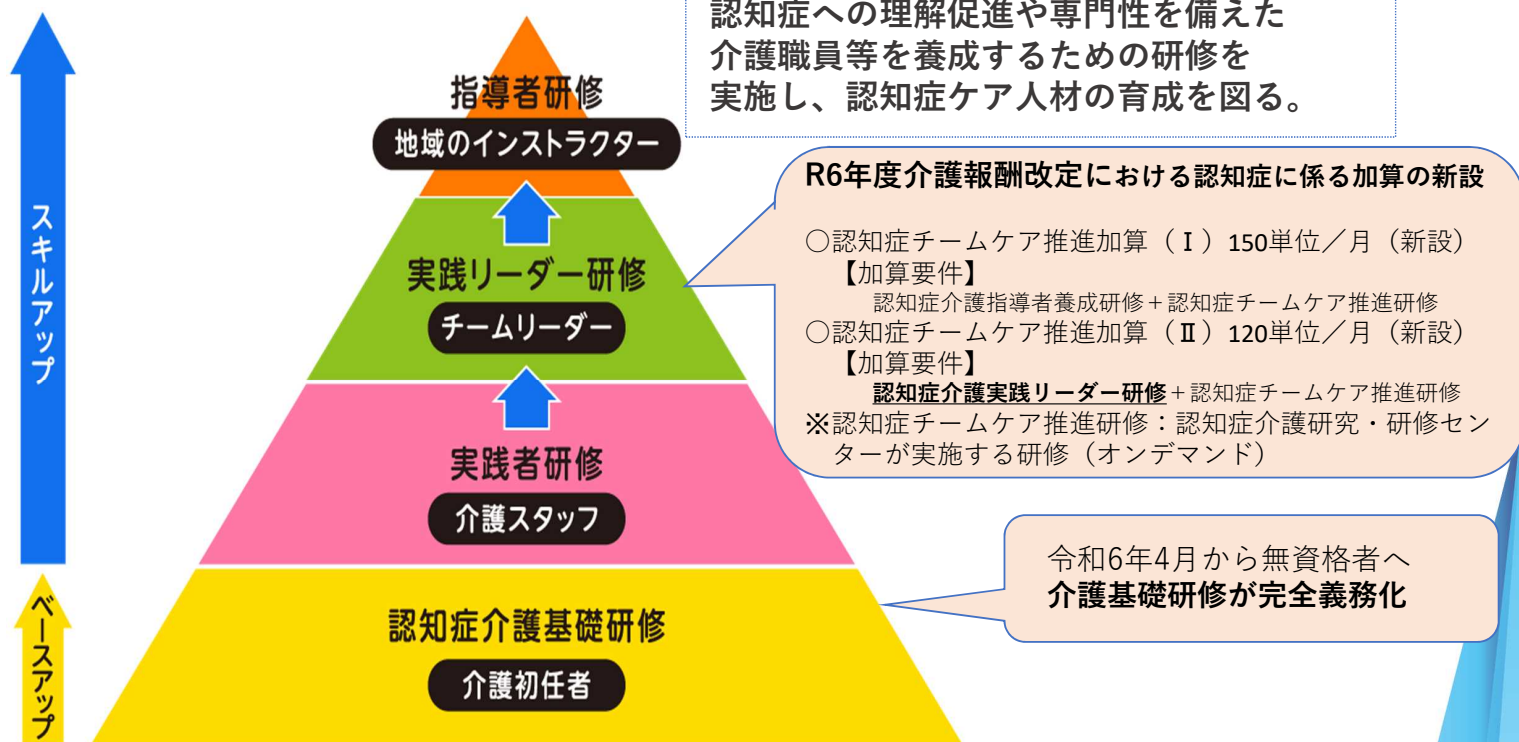
〔ア～カ：政令市(神戸市)は、別途、計画・実施〕

〔実施方法〕 ・イ～カ、ケ・コ：県社会福祉事業団へ委託（ア～ウは、指定機関でも研修実施あり）

・キ・クの研修：認知症介護研究・研修大府センター(愛知県)へ派遣

研修名	対象者
ア 基礎研修	介護保険施設・事業所等において、介護に直接携わる職員のうち医療・福祉関係の資格を有さない者等
イ 実践者研修	介護保険施設・事業所等に従事する介護職員等であって、概ね2年以上従事している者
ウ 実践リーダー研修	実践者研修修了者
エ 管理者研修	グループホーム、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護の管理者等
オ 開設者研修	グループホーム、小規模多機能型居宅介護の代表者等
カ 計画作成担当者研修	小規模多機能型居宅介護の計画作成担当者等
キ 認知症介護指導者養成研修（※）	認知症介護研修の講師となる、指導的立場の人材を養成する研修
ク フォローアップ研修	認知症介護指導者養成研修修了者の資質向上を図るためのフォローアップ研修
ケ 認知症介護実践研修 修了者フォローアップ研修	実践者研修・実践リーダー研修終了者
コ 兵庫県認知症介護指導者フォローアップ研修	兵庫県認知症介護指導者等

## 認知症介護研修（法定研修）の研修体系図



## 兵庫県の若年性認知症者数推計 1,454人 (人口比率による推計)

### 【若年性認知症の実態調査結果概要 (R2.3)】

- 全国における若年性認知症者数は、**3.57万人**と推計 (前回調査 (H21.3) 3.78万人) ※
- 18～64歳人口における人口10万人当たり若年性認知症者数(有病率)は**50.9人** (前回調査 (H21.3) 47.6人)  
※前回調査と比較して、有病率は若干の増加が見られているが、有病者数は若干減少。  
有病者数が減少している理由は、当該年代の人口が減少しているため。 厚生労働省HPより

圏域	若年性 認知症者数 (推計※1) 【単位:人】	若年性認知症支援センター 相談件数				市町認知症相談センター 若年性相談件数※2				認知症疾患医療センター 若年性認知症鑑別診断件数			
		R4		R5		R4		R5		R4		R5	
		新規	継続	新規	継続	初回	継続	初回	継続	MCI	認知症	MCI	認知症
神戸	397.9	56	523	43	856	1	3	1	0	7	18	10	22
阪神	477.6	34	122	8	94	37	175	31	212	9	20	27	31
東播磨	198.4	9	152	5	67	22	94	20	111	0	5	2	4
北播磨	67.2	7	17	6	38	6	28	17	142	3	0	0	1
播磨姫路	219.1	9	64	9	104	20	104	36	94	11	17	11	29
但馬	38.3	3	3	0	3	2	34	3	30	0	4	0	0
丹波	24.7	1	0	1	0	7	5	2	5	0	0	1	0
淡路	30.8	1	7	2	2	6	20	7	43	2	0	2	3
兵庫県 計	1,454	120	888	74	1,164	101	463	117	637	32	64	53	90

※1 若年性認知症者数の推計値算出方法

我が国の若年性認知症有病率18歳～64歳人口10万人当たり50.9人

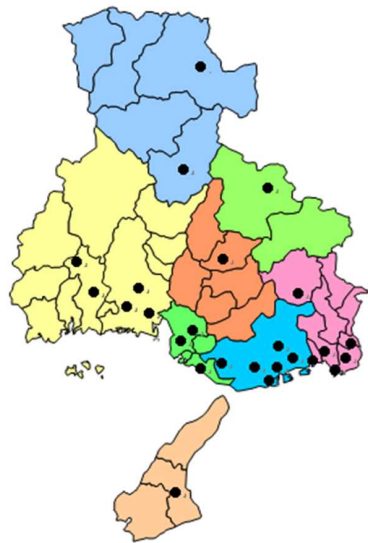
(2017(平成29)年度～2019(令和元)年度実施の日本医療研究開発機構 (AMED) 認知症研究開発事業による若年性認知症の調査より)  
2020(令和2)年国勢調査の兵庫県18歳～64歳人口を用いて推計

※2 神戸市の相談件数は、77ある相談センターのうち、こうべオレンジダイヤルに寄せられた件数を記載

## 若年性認知症支援体制の強化に向けて

鑑別診断後早期からの切れ目のない支援のため、ひょうご若年性認知症支援センターの全県的な支援・バックアップのもと、認知症疾患医療センターを中心に、市町や圏域の支援機関との連携を一層促進し、地域の支援ネットワークの充実に努める。

●：認知症疾患医療センター



### 地域の支援ネットワークを充実

#### ○認知症疾患医療センター

- ・診断後支援の強化
- ・若年性認知症相談スキル向上 (若年性認知症支援コーディネーター研修受講等)

連携

#### ○各市町・圏域ごとのネットワーク

- ・介護部門
- ・労働部門
- ・障害部門
- ・自立支援協議会 ほか

ひょうご

#### 若年性認知症支援センター (県社会福祉協議会)

- 全県支援
- 地域のバックアップ
  - ・助言
  - ・多職種連携会議
  - ・研修 等

身近な地域で若年性認知症支援のための多職種 (介護・障害・就労等) の関係者による連携を強化

⇒キックオフ:全県多職種対象研修 (R5.10.24)

「若年性認知症の方への身近な地域の支援体制強化に向けて」

～認知症担当・介護・障害・就労支援・医療等わがまちの多分野連携によるネットワークを考える～

⇒R6年度～各圏域でネットワーク会議 (研修) を年2～3圏域程度実施予定 (R6:阪神、東播磨)